

DeepIP : AIによる特許作成プロセスの革新

DeepIPは2025年3月に1500万ドルのシリーズA資金調達を完了し、特許業界に革命をもたらすAI特許アシスタントの開発・拡大を進めています。この仏米合併スタートアップは、時間のかかる特許作成プロセスを効率化し、特許実務者の作業時間を最大50%削減することに成功しています。AIによる特許作成支援は、特許の質を向上させながら作業効率を高めるといった画期的なソリューションとして注目を集めています。

DeepIPの概要と背景

DeepIPは、フランソワ・グザビエ・ルデュック（CEO）とエドゥアール・ダルシンボー（CTO）によって2024年に設立された、ニューヨークとパリに拠点を置くスタートアップ企業です^{[1] [2]}。創業者らは以前Kili Technologyのリーダーとして、エアバス、IBM、SAPといった研究志向の機関向けにAIソリューションを開発してきた経験を持っています^{[1] [2]}。LinkedInのプロフィールによると、DeepIPは当初「davinci」という名前で知られていたようです^[3]。

この度発表された1500万ドルのシリーズA資金調達はAI専門ファンドのResonanceが主導し、Headline (Mistral AIの投資家)、Serena Capital (Dataiku)、Balderton Capitalが参加しています^{[1] [4] [5]}。この資金は米国と欧州での事業拡大と、AIプロダクトの更なる発展に活用される予定です^{[1] [4] [5]}。DeepIPはサービス開始からわずか7ヶ月で年間経常収益が7桁に達するという急速な成長を遂げています^[5]。

特許業界の現状と課題

特許は資本主義の基盤であり、革新を保護し商業的發展を可能にする重要な役割を担っています。例えば、BioNTechとModernaにライセンスされたmRNAワクチン特許は、COVID-19ワクチン開発に不可欠でした^{[1] [4]}。しかし、特許出願プロセスは1990年代から大きく変わっておらず、まるでファックス機の時代のように手動で一語一語作成される時代遅れの方法が続いています^{[1] [4]}。

現在の特許プロセスには以下のような問題点があります：

1. 高コスト：特許の生涯コストは2万～10万ドルに達します^{[1] [4]}
2. 時間がかかる：承認まで2～4年を要します^{[1] [4]}
3. エラーが発生しやすい：複雑な専門用語と時代遅れのプロセスが大きな課題となっています^{[1] [4]}
4. 膨大な量：USPTOには100万件以上の出願が保留中であり、世界全体では年間350万件の特許出願があります^{[1] [4] [5]}

特許実務者は、より速く作業するようプレッシャーを受けています。1990年代には40時間かかっていた出願作成時間が、現在では20時間に短縮されています^{[1] [4] [6]}。一方で、特許出願は年間4.4%の割合で増加し続けており、実務者はますます複雑化する分野で精度を維持しながら迅速に作業することを求められています^{[1] [4]}。

DeepIPのAI特許アシスタントとその機能

DeepIPは、特許実務者を煩わしい作業から解放し、より高い価値をクライアントに提供することを目的とした次世代のAI特許アシスタントを開発しています^{[1] [4] [7] [6]}。このAIアシスタントはMicrosoft Wordに直接統合され、特許弁護士が文書を作成する主な環境でシームレスに機能します^{[1] [4] [7]}。

DeepIPの主な機能には以下が含まれます：

特許作成支援

- 大きな文書の要約：必要な情報を素早く把握^{[1] [4] [7] [8]}
- 複雑な専門用語の簡略化：明確さと精度を確保^{[1] [4] [7] [8]}
- 革新的な側面の強調：特許クレームを強化^{[1] [4] [7] [8]}
- 欠落情報の特定：必要な詳細が漏れなく含まれているか確認^{[1] [4] [7] [8]}

クレーム強化と仕様書作成

- クレームの関連提案：アイデアの強化と拡張^[7]
- 異なるクレーム構造の提案：柔軟性と創造性を提供^{[1] [4] [7]}
- 発明の様々な実施形態の正確な記述^[7]
- 図面のインポートと精密な説明の生成^[7]

アプリケーションの反復とレビュー

- 代替案の提案と変更の一括適用^[7]
- 不適切な言語の特定と削除^[7]
- 図の正確な番号付けの確認^[7]
- ラベルと用語の一貫性の検証^[7]
- すべてのクレームが説明によって完全にサポートされていることを確認^[7]

これらの機能により、特許実務者は作成時間を最大50%削減し、1日あたり約2時間の作業時間を節約できています^{[1] [2] [5] [6]}。DeepIPはすでに8,500件の特許出願の作成を支援しており、生産性向上だけでなく、特許の品質と防御可能性も向上させています^{[1] [2] [5] [6]}。

技術的特徴とセキュリティ対策

DeepIPは第三者モデルと独自モデルを組み合わせ、独自のデータアクセスを活用することでAIの幻覚（ハルシネーション）を大幅に減少させています^{[1] [2]}。この製品は、特許準備、作成、審査など、特許実務者の日常業務をサポートします^[2]。

DeepIPの特徴的な機能の一つは、過去の特許出願を分析し、個々の実務者やクライアントの文章パターンを学習して複製する能力です^{[1] [4] [2]}。これはクライアントが特定のトーンや特定の言い回しを要求することが多いため、非常に重要な機能となっています^[2]。

セキュリティ面では、DeepIPは以下の厳格な基準を維持しています：

- ゼロデータ保持ポリシー：セッション終了後にユーザーデータを保存しない^{[1] [4]}
- GDPR準拠^{[1] [4]}
- SOC 2 Type IIおよびISO 27001認証：完全なデータ分離と機密性を確保^{[1] [4]}

スタンドアロンのAIツールが既存のワークフローを中断させるのとは異なり、DeepIPのMicrosoft Word統合は弁護士の既存のプロセス内でシームレスな機能を提供します^{[1] [4]}。

市場での実績と今後の展開

DeepIPのCEOであるフランソワ・グザビエ・ルデュックによると、「保護され、経済全体により多くの価値を生み出す可能性のあるイノベーションがこれほど多く存在したことはありません。しかし、これを可能にする特許の管理方法は十分に進化していません」^{[1] [4] [2] [5]}。

DeepIPは米国の50の最大IP法律事務所との継続的なフィードバックループを通じてAIを洗練させ、精度と法的厳密さを実現しています^{[1] [4] [2] [5]}。「製品市場適合性はほぼ即座に現れました」とルデュックCEOは述べています。「あるお客様は『もし会社がこれを購入してくれなければ、私自身が購入する』と言った同僚が5人もいます」と付け加えています^{[1] [4]}。

DeepIPのAI特許アシスタントは、特許弁護士がより高品質の特許を半分の時間で作成するのを支援することで、特許登録プロセスを近代化しています^[1]。今回の資金調達により、DeepIPは米国と欧州での拡大を支援し、生産性アシスタントをより高度なAIソリューションに発展させる予定です^{[1] [4] [5]}。

結論

DeepIPは特許業界の時代遅れのプロセスを変革し、AIを活用して効率性と品質を向上させる先駆的な取り組みを行っています。1500万ドルのシリーズA資金調達は、この革新的なアプローチに対する投資家からの強い支持を示しています。特許実務者を「増強」し「置き換え」ないというDeepIPの哲学は、AIと人間の専門知識を組み合わせることで、特許専門家がより速く、よりスマートに、より戦略的に作業できる新しい時代を切り開いています^{[1] [4] [2]}。

特許出願の増加と実務者へのプレッシャーが高まる中、DeepIPのようなAIツールは、法的IP分野における効率性と品質のギャップを埋める重要な役割を果たしていくでしょう^[5]。今後のDeepIPの進化と市場での成長が注目されます。

✻

1. <https://techfundingnews.com/franco-american-startup-deepip-led-by-the-ex-kill-technology-duo-sco-ops-15m-to-bring-patents-to-the-age-of-ai/>
2. <https://www.legaltech-talk.com/deepip-nabs-15m-to-modernise-patent-filing-for-the-ai-age/>
3. <https://www.linkedin.com/company/deep-ip>
4. <https://techfundingnews.com/franco-american-startup-deepip-led-by-the-ex-kill-technology-duo-sco-ops-15m-to-bring-patents-to-the-age-of-ai/>
5. <https://technews180.com/funding-news/ai-patent-startup-deepip-closes-15m-series-a-round/>
6. <https://ipwatchdog.com/press/ai-deepip-raises-15m-harvey-patent-law/>
7. <https://www.legaltechnologyhub.com/vendors/deepip/>

8. <https://bestofai.com/article/ai-patent-startup-deepip-secures-15-million-with-this-pitch-deck>